

基本方針

4R(発生回避、抑制、再利用、再資源化)+Renewable(再生資源への代替等)

プラスチックごみの抑制


食品ロスの削減

啓発・情報提供の充実

ごみの適正処理

～ 生ごみ3キリ運動のススメ ～

- ・ 食材を**使いキリ**しましょう!
- ・ 料理を**食べキリ**しましょう!
- ・ 生ごみの**水キリ**をしましょう!



生ごみの約8割は水分
捨てる前にギュッとひと絞り!

排出抑制に関する施策

○ ごみ発生の回避(Refuse:リフューズ)

市民、事業者に対して、過剰包装の抑制、マイバック・マイボトルの利用を促進する。

○ ごみの抑制(Reduce:リデュース)

市民、事業者に対して、商品購入の際は、詰め替え用や耐久性の高い商品の選択を促進する。

○ 再利用の推進(Reuse:リユース)

フリーマーケットなどのイベント、再利用に関する情報について、市民・事業者に対して、啓発を行う。

○ 再資源化の推進(Recycle:リサイクル)

市民、事業者に対して、資源ごみの分別、リサイクル品の購入を促進する。

○ 再生資源代替の推進(Renewable:リニューアブル)

境港市グリーン購入調達方針に基づき、環境にやさしい商品を購入する。

○ 食品ロス削減の推進

市民、事業者に対して、食品ロスの削減を啓発する。

○ 学校等における食育の推進

食の循環や環境を意識した食育を推進する。

○ 災害備蓄食品の有効活用

消費期限切れが見込まれる災害備蓄食品について、福祉団体等へ提供し、継続して有効活用を図る。

○ 情報発信と環境学習の推進

市報などを通じた情報発信、自治会などへの出前講座などを継続するとともに、国や県などが実施する取り組みとの連携を図り、市民、事業者への意識醸成につなげる。

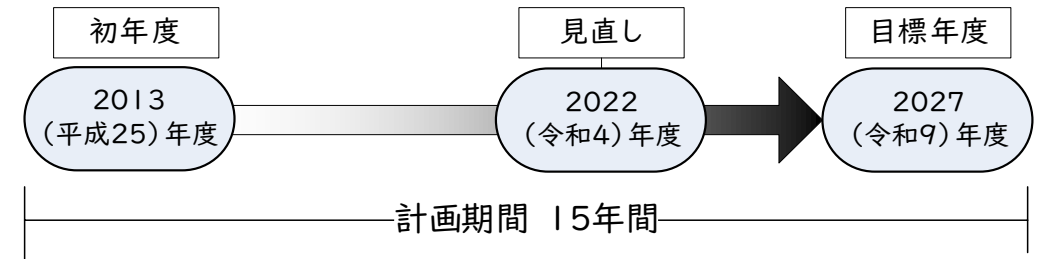


境港市一般廃棄物処理基本計画

ごみ処理基本計画〔概要版〕案

鳥取県境港市

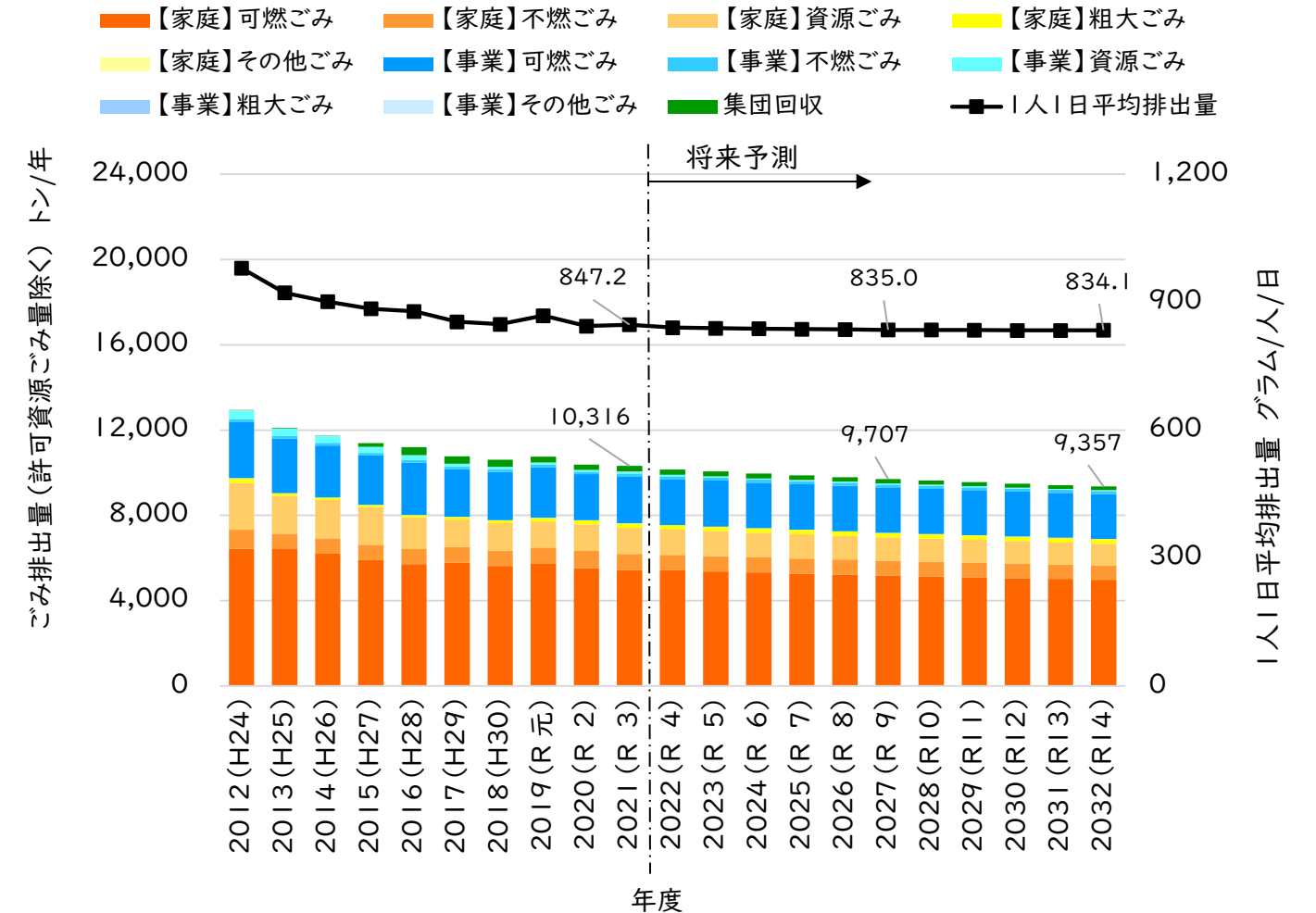
計画の期間



ごみ排出量の将来予測

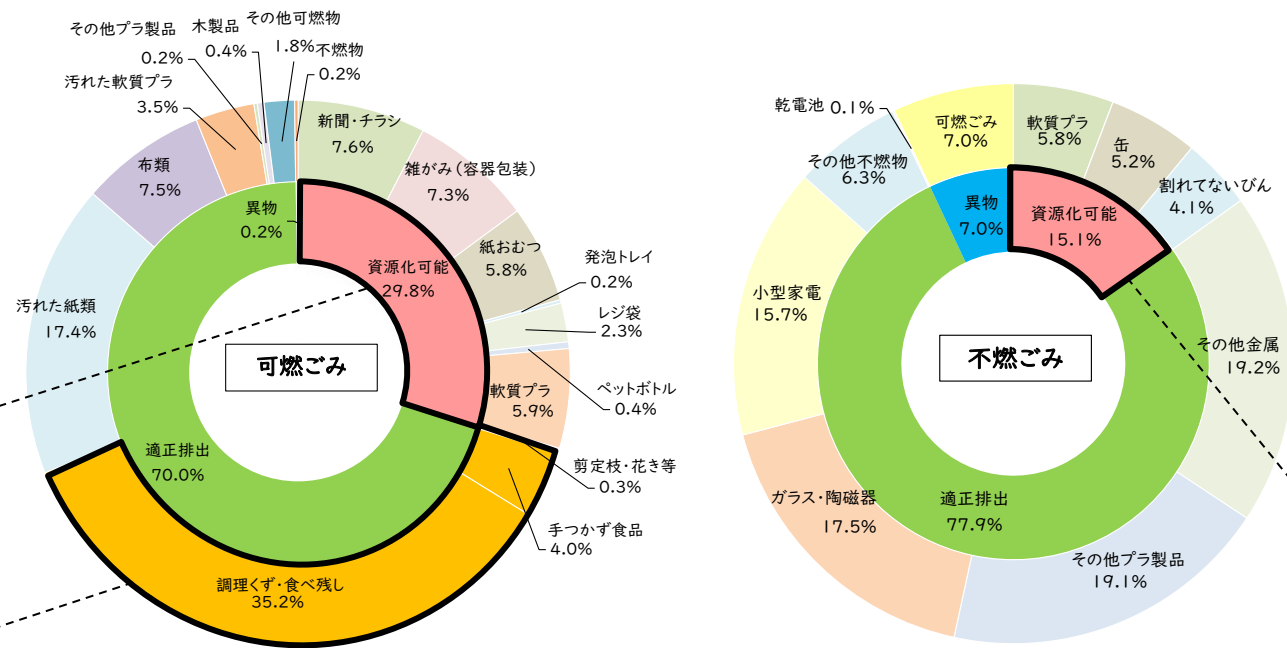
近年のごみ排出状況の傾向を前提に、今後も同様の傾向が続くものとしてごみの将来見込みを行った場合(以下「単純推計」という。)、人口の減少に伴って年間排出量は減少し、ごみ排出量の排出原単位(1人1日当たり排出量)も減少していくものと予測されます。

注) 行政が処理に関与せずに出発業者が直接資源化している許可資源ごみは含んでいません。



ごみの性状(ごみ組成調査結果より)

家庭系収集可燃ごみは、適正に排出されているものは70.0%、資源ごみに出すことができるものが29.8%を占めています。また、手つかず食品、調理くず・食べ残しは全体の39.2%を占めています。家庭系収集不燃ごみは、適正に排出されているものが77.9%、資源ごみに出すことができるごみが15.1%を占めています。



目標値

単純推計に「ごみの排出削減目標」と「分別徹底目標」を加え、次の目標を設定します。

項目	基準年度 2021(令和3)	計画目標年度 2027(令和9)	基準年度と 目標年度の差
1人1日当たりのごみ排出量 (許可資源ごみ量除く) (グラム/人・日)	847.2	818.4	△ 28.8
家庭系収集ごみ 1人1日当たりの排出量 (資源ごみ量除く) (グラム/人・日)	485.2	452.6	△ 32.6
事業系ごみ排出量 (資源ごみ量除く) (トン/日)	6.46	5.93	△ 0.53
リサイクル率 (%)	35.7	37.2	1.5

1人1日約30グラム削減 ⇒ 家庭では たまご(Mサイズ)なら約1/2個分
 するための目安は? ⇒ 事業所では コピー用紙(A4)なら約7枚分

年間削減量 約802トン(1日削減量 約2.2トン)

ごみの排出削減目標

家庭系収集可燃ごみは、手つかず食品、調理くず・食べ残しが全体の約40%を占め、このうち5%(8.5g/人・日)を削減することを目指します。事業系許可搬入可燃ごみについても、現状よりも5%(0.27トン/)を削減することを目指します。

	家庭系 収集可燃ごみ 434.3g/人・日				事業系 許可搬入可燃ごみ 5.45トン/日	
基準年度 2021(R3)	手つかず食品、 調理くず・食べ残し 170.3g (39.2%)	異物 0.8g (0.2%)	その他 適正排出 133.8g (30.8%)	資源化 可能 129.4g (29.8%)	可燃ごみ 5.45トン	
	このうち5%(8.5g) を削減				このうち5%(0.27トン) を削減	

分別徹底目標

家庭系収集可燃ごみは、資源化可能ごみが全体の約30%を占め、このうち15%(19.4g/人・日)を分別徹底することを目指します。家庭系収集不燃ごみは、資源化可能ごみが全体の約15%を占め、このうち15%(1.1g/人・日)を分別徹底することを目指します。

	家庭系 収集可燃ごみ 434.3g/人・日				家庭系 収集不燃ごみ 48.9g/人・日		
基準年度 2021(R3)	手つかず食品調理 くず・食べ残し 170.3g (39.2%)	異物 0.8g (0.2%)	その他 適正排出 133.8g (30.8%)	資源化 可能 129.4g (29.8%)	資源化 可能 7.4g (15.1%)	異物 3.4g (7.0%)	その他 適正排出 38.1g (77.9%)
				このうち 15%(19.4g) を分別徹底	このうち 15%(1.1g) を分別徹底		

目標達成に向けた重点的取り組み

排出削減	生ごみの削減 ・手つかず食品 ・調理くず ・食べ残し	<ul style="list-style-type: none"> ● 食品ロスの削減 ● 生ごみの水切り推進 ● 生ごみ分別収集グループによる堆肥化推進 ● 減量化の啓発 ● コンポストの普及・促進
	事業系ごみの削減	<ul style="list-style-type: none"> ● 減量化の啓発 ● 多量な一般廃棄物排出事業者への指導 ● ごみの組成調査実施
資源化	分別徹底	<ul style="list-style-type: none"> ● 分別徹底の啓発 ● 使用済み紙おむつの資源化促進 ● 廃品回収奨励制度の推進